

ししがたに

第 628 号 2024(令和 6)年 1 月号

発行者：宗教法人「金光教鹿ヶ谷教会」 TEL 075-761-2040
〒606-8425 京都市左京区鹿ヶ谷西寺ノ前町 81

E-Mail cosmos@inochinokoe.onamae.jp

<http://www.inochinokoe.onamae.jp/inotinokoe/inotinokoe>

信(心)行 月間

み教え実践

令和6年
1/4~31

『心の練習帳』の中の何でもOK取り組んでみ!! 実際にご覧下さい☀



「願いたい」成就のために 新年おめでとうございます☀

願いたいも新たに、新しい年をお迎えのことと思えます。心の中で、どんな「願いたい」をたてておられますか。

教祖金光大神様のお広前に参拝した、とある若い娘さんの願いは、「嫁入りができません。(肌の)色を白くしてください」というものでした。金光大神様は「おかげが受けられます」と仰せになり、その後、娘さんは、頭に瘡(かさ)ができて頭中に広がり、さらに肩や胸にまで出来ましたが、「まあ、何かの都合であろう。神に任せておけ。喜ぶことがある」と仰せられました。最終的にはぼつぼつとかさぶたができて、瘡の跡が真っ赤になり、頭髪もほとんど生えて、肌は真っ白い色になりました。その時、「神様のおかげは、どうしてかわからないが、一時は悪くなっても、しまいはおかげが受けられる。しかし、氏子の中には辛抱できないものもある」と仰せられたとのことでした。

願いたいによっては、成就への途中、自分の物差しでは、辛く、苦しい時があるかも知れません。その先に進むための天地金乃神様の段取りとして、前向きに受け止めさせて頂きましょう。金光大神様は「自分の腹から知ったのではなくて、神様の方から『金光大神と頼んで来る氏子は、神がすぐ受け取る』と教えられた」と仰せです。：何と力強いことではありませんか。一心の祈りや辛抱を通して、私たちがこそがおかげを受け損ねないように、心かげも「新たに」、元氣な心で、新年の日々と向き合ってください。

『心の練習帳』について：身近な方にもどうぞ差し上げてください。金光教の布教が目的ではありません。共に支えあい、どこかで関わり合っている、同じ天地金乃神様の子供同士、それぞれがこの「練習帳」で、今までとは違った目線で物事と向き合ったり、人と接してみたりする中で、「その方の助かりになればそれで良い」ということです。

今後と年間の予定

【1月】

1日(月・祝) 11時～
元日祭・誕生感謝祭

24日(水) 14時～
月例祭・月例霊祭

【2月】

4日(日) 10時半～
月例祭・誕生感謝祭

初代愛助師例年祭
祭典後 信徒新年総会

24日(土) 14時～
月例祭・月例霊祭

- ・春季霊祭(真治大人三年祭)
3月20日(祝水) 14時～
- ・天地金乃神大祭
4月29日(祝月) 14時～
- ・秋季霊祭 秋分の日付近
- ・生神金光大神大祭 10月下旬

今年式年を迎える霊神様

※敬称(諡号=おくりな)は省略させていただきます。

【1年】(8月)稲葉茂造

【3年】(2月)井上昌行 (3月)松村真治
(5月)竹内真

【5年】(2月)岡本正介 (7月)野村嘉子

【10年】(2月)松村サナヨ

【15年】(6月)羽鳥敬香 (6月)大村ことめ
(11月)杉本サミ

【20年】(1月)濱口都代子(12月)大村正二

【25年】(8月)櫻井栄吉

【30年】(3月)山本光弘

【40年】(5月)竹内親吏

【45年】(11月)阿賀嘉津

【50年】(1月)田中義之(12月)松岡章子
(12月)松岡昌一

信徒会から
「信徒新年総会」のお知らせ

日時：令和6年2月4日(日)の祭典後
※千円の会費制(お弁当を用意します)
申し込み最終のメ切は1月末頃です。
(会費は当日です) ※適時出欠を伺います

📄 KPAC 寄付の報告(令和5年)

助け合い箱、お下がり、個人寄付を下記の通り、寄付させて頂くことができました。どうぞお役に立てますように。

12月(1食を捧げるチャリティー) 17万2000円

KPAC…金光教平和活動センター 主に東南アジアの貧困子供への支援
まさに神様の願いである人助けの取り組みがなされています。

前教会長を偲ぶ

【いのちが喜ぶ生き方を①】

「開運のパワーポイント、正月編」
(平成26年発行)より

支え、支えられてのお互いのいのち はじめに

新しい年を賜りまして、真におめでとうございます。正月が待ち遠しいのは、心機一転、生まれ変わりを願う心が働くからでしょう。天地がそれを願っておられるのだと私は頂きます。「大人になれば面倒なだけ」との向きもありましょう。ならばなおさら、まっさらな心を取り戻すチャンスとしての正月をぜひお迎えさせてもらえるようにと願いたいものです。

正月ごとに歳神様(ご先祖様)から賜る「とし」を、「お年玉」と言い習わしてきました。今は合理主義の時代になって、「お年玉」は、人から人へご祝儀として受け渡しされる金品にすり替えられてしまっていますが、元は、目に見えない「お年玉」を鏡餅にして、それを身体で受け取る場所に、神様ご先祖様との関係結び直す仕掛けができていたと思われまます。多事多難の時代であるだけに、本来「いのちの再生という神事」である正月を迎えるたび、ますます「いのちの世界」に心をよせて、真実のちを大切にす道が現れて参りますようにとご祈念申さずにはいられません。その祈りを込めて、お話を用意しました。少しでもお役に立つことになれば、有難き幸せに存じます。

運命は変えられるか？

自然とともに生きとし生けるものの中の

賜びし一つのいのちなるわれ(四代金光様のお歌)

物心がつく以前から、すでにいのちのネット

ワークに組み込まれてこの世に送り出されたお互いでありませす。タテにもヨコにもつながって人生を歩み始めたことは、疑う余地のない事実なのです。

出会いとかご縁とか言いますが、人生はそのトータルで成り立っていると言ってもよいくらいです。出会った当初に、これが果たして吉と出るか、凶とでるか、誰にも分かりません。その後の人生を大きく変える運命的な出会いともなれば、そのおかげで人生は悲惨なことになったか、あるいは輝かしいものになったか、いづれ答えが出ることになりませす。

しかし、運命に対する理解を少し深めることができたなら、運命自体を吉に変えることも不可能ではないと私は信じています。運命を吉に切り替えるためのパワーポイントとして、この「正月」をぜひ生かしたいものです。

朝はどこから？

♪朝はどこから来るかしら♪という歌がありますね。♪光の国から来るかしら♪とあって、最後に、♪希望の家庭から来る♪とあります。人間には分からない世界を指して、光の国や神仏といったりませす。見渡せば、情報などの無形のものも含めて人間のこしらえたものがあふれかえっています。そうではないものにも注目してみませす。朝も、正月も、地球の自転と公転が刻む「時」という船に乗ってやって来るのでして、人間がこしらえたものではありませすね。宇宙飛行士が宇宙から地球を見て、「いのちをはぐくむ保育器に見えた」と言いました。人間が生まれるずっと以前に用意されていたこの保育器は、人間がこしらえたものではありませす。宇宙には生命はないと思いがちですが、実は宇宙全体が、規則正しく鼓動を打つ無限大の生き物という面があります。その鼓動が時を刻むのであり、朝も、正月も、

その「時」を乗り物にしてやってきます。その宇宙に浮かぶ保育器、これが命の生みの親であり、現に私たちを生かしてくれている天地であり、これまた特大の生きた「いのち」なのです。

いのちの生きざま

いのちには新陳代謝、つまり物質と情報のやり取りによって、それを維持することができています。その発生は、もとは一個の受精卵が分裂を繰り返して、億兆もの細胞に変身していきます。しかもその過程で色々な臓器を形成しますが、個々の細胞は隣り合ったもの同士が情報を交換して、自分になるべきものが何かを見極めて、設計図に従って変身の為にスイッチのオフとオンを繰り返して、自ら目指す臓器へと仕上げていくというのです。一つひとつの生命体は小宇宙とも呼ばれます。その内部で細胞が増殖しながら、しかも全体が一定のバランスを保ち続けています。個々の「変化」と全体の「調和」を、絶妙に生み出しているこの姿は、人間の力を超えた営みによるいのちの有り様を示しています。そこから、「いのちが喜ぶ生き方」、つまりどうすればいのちを大切にすることになるのか、という問いに対する答えが、実ははつきり読み取れます。いうならば、自立的に運動しながらも、他と連係して、いのちのネットワークを構成する一員としてのお役目を果たすように努めているというイメージです。(続く)

今年は...

立教 165 年

教祖 141 年

教団独立 124 年

教会開教 94 年

です。